

第 263 回(10 月)

国際環境規格— ISO 14001 認証取得への取得

株式会社東芝 青梅工場生産技術部 部長 五十山田俊氏

当工場の製品は、世界トップのシェアを持つ。3/4 が海外マーケットであり、米・独でも一部生産している。このため早い時期に ISO 9000 を取得し、将来を見越して 14000 の前身である BS 7750 をも先行取得したわけである。94/9 月下旬に受査を決定し、95 年 7/19 の JACO（日本環境促進機構）判定会議の結果認証を受けた。基本規程の作成に当たって、当社の規程類を BS に合わせて改定するか、全く新しく作成するか迷ったが前者の方法をとった。戸惑ったのは、BS 7750 では工場長を経営者として取り扱い、この下の生産技術部長が環境管理責任者と見られることである。

実施に当たって助かったことは ISO 9000 シリーズ取得時に ISO の思想を良く理解していたので、思想ギャップが無く環境保全サイクル概念がすぐに理解出来たことである。実務的には①環境基本方針策定②保全体制策定（諮問・実行・専門部会）③影響評価（汚染など）④目的・目標策定⑤保全推進計画（年 1 回見直し）⑥保全文書整理（基本規程・実施規程・作業標準および記録）⑦保全実務責任者決定⑧保全活動記録（管理された記録）⑨社内監査（全体監査と部門監査）⑩システム見直し（年 1 回、目的にまで遡って監査）という過程をとる。この内①と⑩については、経営者が自ら行うことが義務づけられ、1:1 で諮問を受ける。効果としては、取引上の優位さに加え、産業廃棄物のリサイクルが進み、4 年間に 1/4 にまで減量できたことである。